



Eiche

Die Eiche テイ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町2-681 ワールドナースングホーム内

Phone: 047-467-6111 Fax: 047-467-6123

岩崎英二郎先生講演会開催



講演する岩崎英二郎先生



岩崎先生の左に小野寺顧問、後に平尾会長、右に大田会員

平成20年7月12日(土)15:30・於千葉市生涯学習センター 大研修室 63名

今回は、ドイツ語学の権威(慶應義塾大学名誉教授・日本学士院会員)岩崎英二郎先生をお迎えし、午後3時半より1時間半、講演会を開催した。演題は「ドイツ語のむずかしさ・おもしろさ」。副詞、心態詞 schon のいろいろな場面での用法についてたくさんの例文をあげ解説していただいた。当日の会場・千葉市生涯学習センター大研修室には会員、会員の友人、知人63名が出席し、岩崎先生の講義に熱心に聞き入った。出席者の中には、NHKラジオ、テレビの放送でおなじみの先生方、岩崎先生の門下生などもおられ、会場はドイツ語に関わりをもつ幅広い層の聴講者で埋まった。講演会終了後は、場所を一階のレストラン「ベネチアン」に移して懇親会。平尾会長、当協会顧問の小野寺和夫氏からさらに詳しい岩崎先生の人となりの紹介があり、しばらく懇談の後、國枝副会長の謝辞でにぎやかな宴もお開きとなった。岩崎英二郎先生にはご高齢にもかかわらず、遠路を千葉までお越しいただき、講演から懇親会とずっと立ち通しでご対応いただき、改めて御礼を申し上げます。

岩崎英二郎先生講演

「ドイツ語のむずかしさ・おもしろさ」

当日は、会場の大研修室が一杯になり、千葉県日独協会の会員の方々のドイツ語に対する関心の高さ、熱心さ、そして旺盛な向上心を感じた。

平尾浩三会長による簡単な挨拶と岩崎先生ご紹介の後に、「講演」、というよりは「授業」のような岩崎先生のお話が始まった。

まず、ことばの難しさと面白さを実感し易い翻訳の問題が取り上げられた。『「真珠湾」はない』正しくは「真珠港」である、という原徳三氏(歴史研究家)のエッセイを基に、「ベルリンの壁」は誤訳であり、正しくは「ベルリンの塀である」ことを指摘。ドイツ語の Mauer の意味を複数のドイツ語の辞書を、また、日本語の「壁」と「塀」の意味を、やはり複数の国語辞典を引いて説明し、何かのはずみで誤訳が歴史的概念として決定され、定着してしまうこと、訳語に関する報道の無責任さなどが言及された。

つぎに副詞でもあり、心態詞でもある schon に話題が移ると、先生がインターネットを使って収集された例文や、文学作品からの引用などの多種多様な資料を用いて、やや専門的な話が高速で展開された。一見同じ schon でも、その文脈や状況によって副詞的に使われることも、話し手の心の状態を表現している(心態詞)こともある。心態詞として使われている場合、訳語をつけず、話し手の気持ちを訳出しなければ、ことばが活きない。

(裏面に続く)

—今後の主な催し物案内—

1. グローバルフェスタ Chiba に出展

日時: 8月23日(土)

場所: 千葉大学 けやき会館

JR総武線 西千葉駅東口より徒歩6分

入場料: 無料

2. ドイツ人研修生2名の歓迎会

日時: 平成20年8月27日(水) 18時~20時

場所: バーディーホテルレストラン

千葉市中央区新千葉1-6-5

Tel: 043-242-9090

会費: 3,500円

なお9月4日に送別会も予定していますので、参加希望者は同封葉書でお申込下さい。

3. チター演奏会

恒例の内藤敏子先生によるチター演奏会です。

日時: 平成20年9月20日(土) 14:00~16:30

演奏: チター日本協会会長 内藤敏子先生

場所: 銀座アスター 津田沼賓館

(JR総武線津田沼駅南口前 モリシア・レストラン街 11階) 電話: 047-479-2711

会費: 3,500円(ランチ付き)

今回の演奏会には内藤先生が朗読家の八鍬よし子氏をお招きしチターと共演されます。八鍬よし子氏は、日本を代表する朗読家・坂井清成氏に師事。国内及びドイツ日本人学校での公演で大きな反響を呼んでおられます。当日はアンデルセン作「ヒナギク」、藤沢周平の随筆を語り、バックにチターが流れるという趣向です。

2.3.の申し込み: 同封のハガキに必要事項記入の上、
8月23日(土)までにご返送下さい。

4. 秋の勉強会のご案内

秋の勉強会を下記の要領で開く事になりました。
初めての方も歓迎いたします。

記

テーマ: 「ドイツ語・ドイツ文化入門」

講師: 平尾浩三会長

日時: 10月2,9,16,23,30日 (全て木曜日)
全5回 13時~14時30分

場所: 船橋中央公民館

教材: 当日配布します。

会費: 3,000円

申し込み: 電話にて下記担当者まで。

館野 047-485-9311

水野 047-467-6306

デュッセルドルフ日本デー参加とドイツ視察旅行

今回の旅行の発端は5月初めにカールスルーエで行われた日独協会連合会と独日協会連合会の日独パートナー会議で、千葉県日独協会も当初この会議への参加を検討したが、その間に今年もデュッセルドルフで日本デーが開催され、千葉県もそれに参加することが明らかとなり、千葉県日独協会としては千葉県に協力することを選択したものです。

参加者は会員と家族、会員の友人、知人総勢31名、日程は本隊が6月13日成田発、同22日成田着の8泊10日。報告者は伊東、大嶋両団員と一日先行し、千葉県代表と共に市当局、日本総領事館、日本クラブ等を表敬訪問、また打合せを行い、両団員は千葉県による故エルヴィン市長墓前献花にも参加しました。6月14日の日本デーは現地ライニッシュェ・ポスト紙を飾った大嶋(藤蔭静寿)、加藤(藤蔭壽珠)両団員の日本舞踊公演、千葉県ブースで旅行団全員が手伝い、また現地の相山会員の多大な協力、習志野出身柿内氏の支援等により千葉県とデュッセルドルフ市の交流深化に大きな貢献ができたと確信します。同市よりは市内観光バスの提供、花火観覧の市庁舎の提供等、色々ご配慮を頂きました。日本デーとその後続く旅行を成功裏に無事終了しましたが、これは偏に小野世話人と坂本、館野、伊東、水野各旅行委員の尽力、森田、水野、館野各班長の協力、また団員各位のご協力の賜物であります。また、平尾会長「ゲーテとその詩情」、國枝副会長「マルチン・ルターの生涯」、友野理事「バッハ、音楽の故郷ドイツ」、野村理事「ベルリンと私の音楽生活」等の事前勉強会が旅行をより楽しく、より有意義なものにしました。

報告者はたまたま団長と言う名を頂きましたが、団長として各位に心から感謝申し上げます。最後に今回の旅行をお世話いただいた近畿日本ツーリスト社、同添乗員の高木さんに感謝の意を表します。

(報告者: 常任理事 橋口昭八)

そういう意味で、日本語の「せっかく」のように、話し手の込み入った気持ちを一言で表している言葉を他の言語へ訳すのはきわめて難しいが、その稀有の例外ともいべき日本語の「どうせ: なら」とドイツ語の *wenn schon* の対応関係についてくわしく説明された。最後にこの *schon* に似た言葉で、もっと複雑な *wohl* についても言及があったが、*wohl* に関しては先生ご自身もまだ結論が出ていないとのこと。また、講演後の質疑応答の中で、平尾会長に中世語と現代語の *schon* の関係についての質問があったが、こちらも未解決とのこと。両先生方の益々のご健勝を祈りつつ、今後の研究成果を楽しみにしたい。

(慶應義塾大学非常勤講師 三ツ石 祐子記)